

侍従川に伝わる照手姫伝説

わきの谷戸 廣瀬隆夫 (2025/11/22)

常陸（ひたち）国、真壁郡の小栗（現茨城県真壁郡協和町）に、小栗満重（おぐりみつしげ）という大名が住んでいました。今から六百年前の応永の頃、当時、関東管領として相模を治めていた足利持氏（もちうじ）に謀反の疑いをかけられ、鎌倉より討手向けられ、ついに攻め落とされてしまいました。満重は十人の家来とともに三河国（現愛知県）を目指して落ちのびて行きました。



満重たちが藤沢の宿まで来た時には夜になってしまいました。そこで、『横山』という、今の戸塚あたりの宿屋に泊まることにしました。ところが、宿屋の主・横山大膳（よこやま だいぜん）は、この辺りを荒らしまわる盗賊の首領だったのです。



横山大膳は満重たちを油断させて身ぐるみをはぐために一番良い部屋に通し、お酒をすすめ『鬼鹿毛（おにかげ）』という、日本の暴れ馬を差し向けました。しかし、馬乗りの名手であった満重は庭先を自由に乗り回し曲芸までやってのけました。



横山大膳は美しく着飾った女中たちを呼び、満重たちに毒の入ったお酒をすすめさせました。女たちの中にひととき美しい娘がおりました。その名を照手姫といいました。女中の執拗な手練手管の末、毒杯を飲まされて家来たちは殺されてしまいました。満重は、思いを寄せた照手姫の耳打ちでかろうじて命を救われましたが、瀕死の病人となり家来らとともに上野ヶ原に打ち捨てられました。



その晩のこと、藤沢の遊行寺の上人さまの夢枕に、えんま大王の使者が現れて一通の手紙を置いていきました。上人さまが開いてみると、（上野ヶ原に、十一人の屍が捨てられていて、小栗判官満重だけ助かるみこみがある。熊野の温泉に浸かると助かるであろう。必ず助けるように）と書いてありました。



さっそく上人さまが弟子たちを上野ヶ原に使わしてみると、そこは犬が吠え、カラスが群がっている地獄絵図でした。えんま大王の使者からの手紙のとおり十一人の屍が横たわっており、満重だけは、かすかに息がありました。



上人さまの弟子たちは、満重を餓鬼阿弥（がきあみ・生者と死者の間のもの）というみにくい姿のまま土車に乗せました。胸には、（この者を熊野の七色に変わる温泉に浸けて元の姿にせよ）という、えんま大王が書いた札をぶら下げていました。



照手姫は藤沢から逃げる途中、六浦で捕らえられ、侍従川に投げ込まれてしまいました。しかし、照手姫が唱えた念仏に应えて観音様が救いの手を差し伸べ、姫は野島の漁師によって助けられました。

「侍従川」の名は、このとき照手姫が川に投げ込まれたのを悲しんで油堤という淵に入水して命を落とした侍従に由来するそうです。

助けられた照手姫は、漁師の女房の嫉妬から松に吊るされ、命を奪われそうになりますが、再び観音様の加護によって難を逃れました。金沢八景に残る「姫小島」は、その伝承の舞台とされています。



その後、照手姫は人買いに売られ、美濃国の青墓（あおはか）で厳しい苦役の日々を過ごしました。それでも信仰を忘れず、ただ満重の無事を願い続けました。ある日、人々に助けられながら土車に乗せられ熊野へと向かう餓鬼阿弥に変わり果てた満重の姿がありました。道すがら、その車の身元を知らぬまま供養の一心で引いたのは、なんと照手姫でした。



ついに熊野の七色に輝く湯に入り、満重は奇跡的に回復しました。満重は十人の家来を殺した横山大膳の仇を討ち、長い苦難の末に照手姫を探し出して再会しました。二人はようやく結ばれて幸せな日々を送りました。

満重が亡くなった後、照手姫は二度も命を助けられた観音様に帰依して仏門に入り、遊行寺内に草庵を営んで永享元（1429）年に長生院を建てお念仏を広めました。



．．．．．
照手姫を救った観音様は「身代わり観音」として、千光寺に伝わる千手観音菩薩の胎内仏として祀られています。千光寺は明徳 5(1394)年に侍従川のほとりに創建された浄土宗のお寺で、昭和 58(1983)年に六浦から東朝比奈へ移転しました。照手姫の墓がある藤沢の遊行寺は、おどり念仏で有名な時宗の総本山です。寺には、小栗満重と十人の家来、暴れ馬「鬼鹿毛」が照手姫とともに静かに眠っています。この物語は、苦難の中でも信仰と希望を捨てなければ願いは、いつかは叶えられるということを伝えています。



金沢八景に残る姫小島の碑



姫小島と水門跡



小栗満重と十人の家来の墓



照手姫の墓



照手姫ゆかりの長生院

【参考】

・藤沢を知る「小栗判官・照手姫」 藤沢市教育文化センター
<https://www1.fujisawa-kng.ed.jp/kyobun-c/index.cfm/11,3279,68,html>

・侍従川の名前の由来と照手姫伝説 大道町内会ホームページ
<https://daido-net.sakura.ne.jp/wp/2020/05/25/terutehime/>

・小栗判官と照手姫伝説 八柳 修之
<http://shonan-fujisawa.jp/archives/H190612.html>

・図版 長生院「小栗判官一代記略図」
・写真撮影 廣瀬隆夫